

経営比較分析表（令和6年度決算）

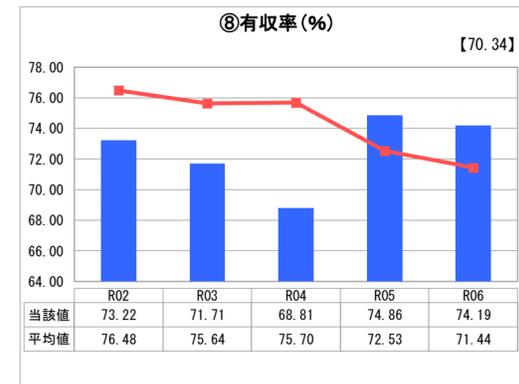
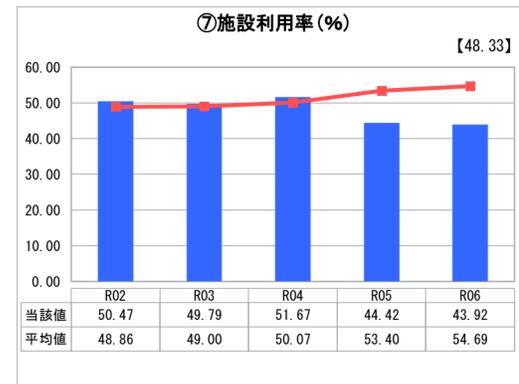
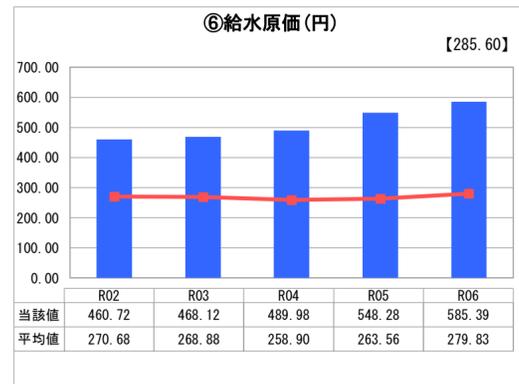
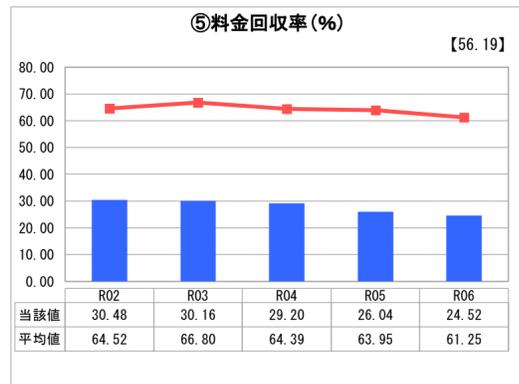
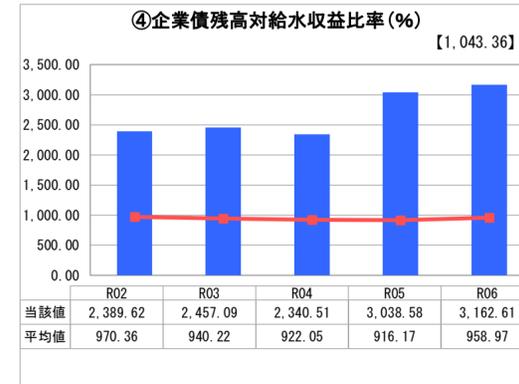
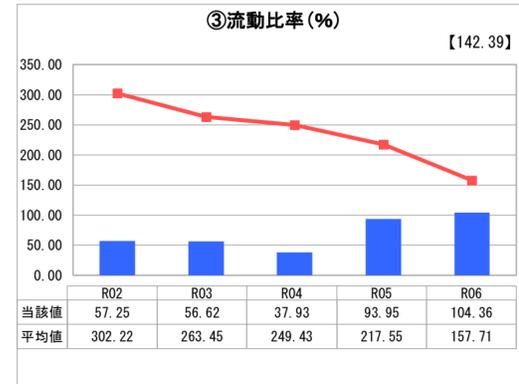
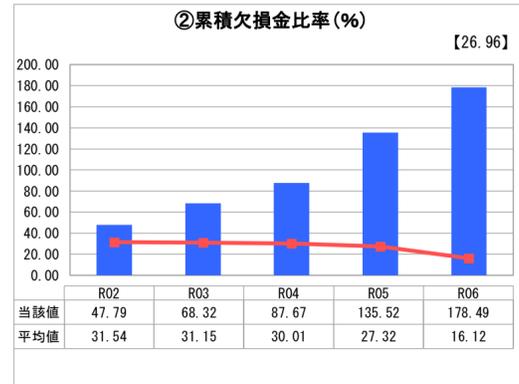
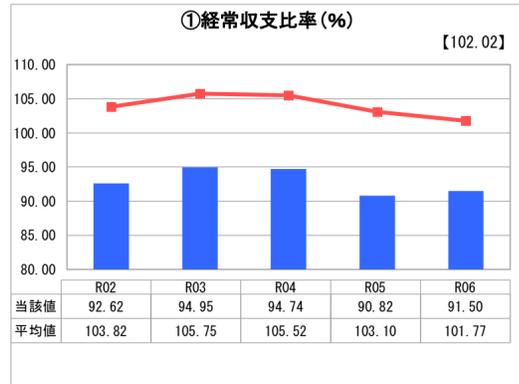
福井県 福井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	37.59	1.49	2,255	

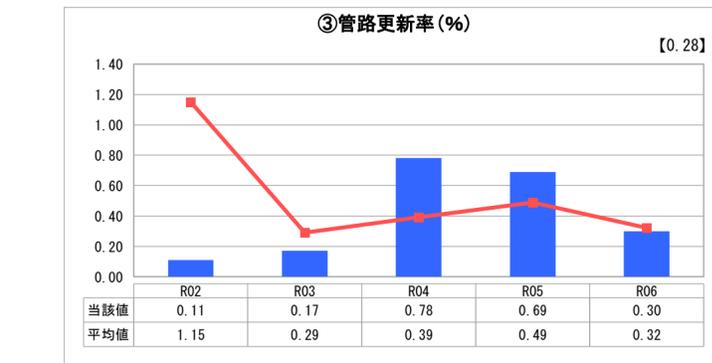
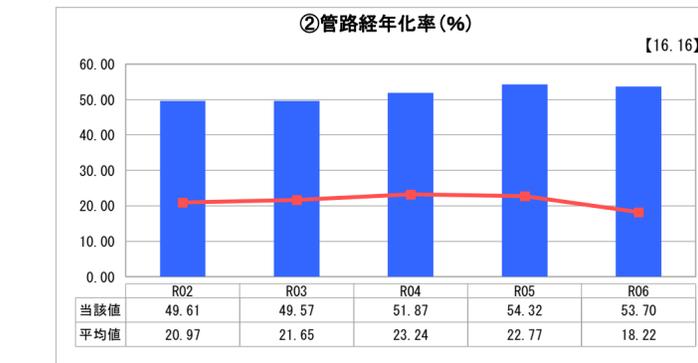
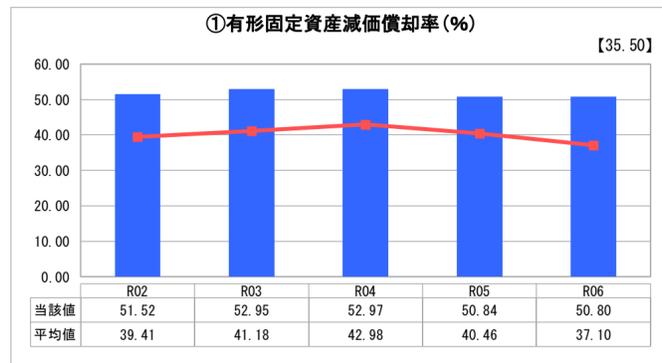
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
254,029	536.37	473.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,774	30.83	122.41

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本会計は収入の大半が一般会計からの繰入金であるが、費用の全てを賄っておらず、純損失を計上している。

そのため、「①経常収支比率」、「⑤料金回収率」は100%を下回り、「②累積欠損金比率」は上昇している。

「③流動比率」は令和6年度決算においては100%を上回ったものの、直近4年間では100%を下回っているため、今後も一定の資金を確保し、支払い能力を高める必要がある。

「④企業債残高対給水収益比率」及び「⑥給水原価」については、給水収益が減少する一方、施設の維持管理費用や更新費用の増加が続くため、今後も悪化する見込みである。

「⑦施設利用率」は類似団体より低い水準にあり、施設の統廃合等を進め、さらなる適正化を図っていく。

「⑧有収率」は、管の老朽化により漏水が多発しており、前年度よりも減少した。老朽管の修繕や更新を進め、改善に努める。

現在、施設の統廃合を進めており、さらなる施設の適正化を図るとともに、老朽管の修繕や更新についても引き続き実施していく。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」、「②管路経年化率」は、類似団体より高い傾向にあり、施設・管路の老朽化が進んでいる。

「③管路更新率」は、前年度より減少し、類似団体と同水準となった。

今後も、施設の重要度や優先度を判断し、計画的に更新を進めていく。

全体総括

本市の簡易水道事業は、給水区域が過疎地域であることから、給水収益だけでは経営が成り立たず、一般会計繰入金に大きく依存している状況である。

また、集落ごとに施設を有するため施設数が非常に多く、その維持管理に多額の費用を要している。今後も人口減少による給水収益の減少や施設の老朽化による更新需要の増大が予想されることに加え、労務単価や物価の高騰など経営環境は厳しさを増している。

こうした状況の中、将来にわたってサービスを安定して提供するため、「福井市簡易水道事業経営戦略」に基づき、業務の効率化や点在する施設の統合などにより維持管理費用の縮減を図るとともに、老朽化が進む設備・管路の更新を計画的に行っていく。